

14日 火曜

I サムエル

22:11 王は人を遣わして、祭司アヒトブの子アヒメレクと、彼の父の家の者全員、すなわち、ノブにいる祭司たちを呼び寄せた。彼らはみな、王のところに来た。

22:12 サウルは言った。「聞け、アヒトブの子よ。」彼は答えた。「はい、王様。ここにあります。」

22:13 サウルは彼に言った。「おまえとエッサイの子は、なぜ私に謀反を企てるのか。おまえは彼にパンと剣を与え、彼のために神に伺い、そうして彼は今日のように私に逆らって待ち伏せしている。」

22:14 アヒメレクは王に答えて言った。「あなたの家来の中に、ダビデほど忠実な者が、だれかいるのでしょうか。ダビデは王の婿であり、あなたの護衛兵の長であり、あなたの家で重んじられているではありませんか。」

22:15 私が彼のために神に伺うのは、今日に始まったことでしょうか。決して、そんなことはありません。王様。このしもべや、父の家の者全員に汚名を着せないでください。あなたのしもべは、この事件について、いっさい知らないのですから。」

22:16 王は言った。「アヒメレク、おまえは必ず死ななければならぬ。おまえも、おまえの父の家の者全員もだ。」

22:17 王は、そばに立っていた近衛兵たちに言った。「近寄って、【主】の祭司たちを殺せ。彼らはダビデにくみし、ダビデが逃げているのを知りながら、それを私の耳に入れなかったからだ。」しかし王の家来たちは、

【主】の祭司たちに手を下して討ちかかろうとはしなかった。



22:18 王はドエグに言った。「おまえが行って祭司たちに討ちかかれ。」そこでエドム人ドエグが行って、祭司たちに討ちかかった。その日彼は、亜麻布のエポデを着ていた人を八十五人殺した。

22:19 彼は祭司の町ノブを、男も女も、幼子も乳飲み子も、剣の刃で討った。牛もろばも羊も、剣の刃で。

22:20 アヒトブの子アヒメレクの息子のエブヤタルという名の人が、一人逃れてダビデのところに逃げて来た。

22:21 エブヤタルはダビデに、サウルが【主】の祭司たちを殺したことを告げた。

22:22 ダビデはエブヤタルに言った。「私はあの日、エドム人ドエグがあそこにいたので、彼がきっとサウルに知らせると思って、私が、あなたの父の家の者全員の死を引き起こしたのだ。」

22:23 私と一緒にいなさい。恐れることはない。私のいのちを狙う者は、あなたのいのちを狙う。しかし私と一緒にいれば、あなたは安全だ。」

ダビデは神様が王として立てられたサウルの権威を否定することはありませんでした。しかし、それはあくまでも神様に従うゆえの信仰です。一方ドエグは王に従順でしたが、神様を考えなかったことで、王の大罪に加担することになりました。この世の権威や秩序に従うことは必要ですが、神様の正しいみこころに反してはならないのです。

ダビデはアヒメレクが殺されたことで心を痛めますが、情に流されることなく、今出来る最善のことをしようとします。アヒメレクとそのエブヤタルも、ダビデを逆恨みすることはありませんでした。悪に加担することはしないと、信仰で決心していたからでしょう。ダビデのように主のため

に生きる者には、必ず主のために犠牲をもちとわない協力者が与えられるものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

